

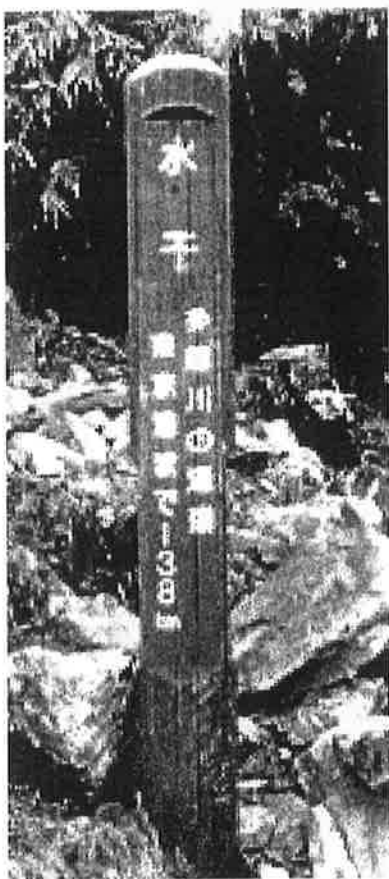
かまにし

第61号

発行 地域力推進蒲田西地区委員会
編集 地域情報紙編集委員会

「存知ですか？」

多摩川最初の一滴！



秩父連峰笠取山（一九五三m）の山頂から南側、少し下に多摩川の水干（みずび、水源の意）があります。

その標柱「水干」には「多摩川の源頭 東京湾まで138km」と記されています。（写真）
ポタ：ポタ：、背後の岩の空間数か所からしずくが落ちてくる。調査によってこの場所が発見されたのは、遠く明治一一年にまで遡れるそうです。
頭上の石に「水神社」と刻まれ、

その上に小さな祠が見えました。大正七年、当時の田尻東京市長がこの地を多摩川源頭と定め、東京水道の守護神として羽村水神社の奥の院として奉建したものとされています。

ポタ：ポタ：滴り落ちたしずくは伏流し、六〇mほど下で湧出して流れが始まります。この流れが水干沢の急斜面を下り、一之瀬川↓丹波川と名前を変え、奥多摩湖を経て、おなじみの多摩川となって東京湾（羽田沖）に注ぎます。

私たちにとっては「母なる川」と呼ぶべきでしょう。

◇ 平成二十三年一〇月二三日、私は、所属する大田区ワンダーフォーゲル協会（加藤昌晴会長）の「多摩川遊行計画―全一三回―」の最終回、当日参加二六名の一人として、笠取小屋経由、この地点に到着しました。

◇ 初めての「水干」見参、私には感動の瞬間でした。だれともなくバンザイ！
そして、流れの始まりで、それが多摩川の「誕生水」を口に、空きボトルをいっぱいにして持ち帰ったのでした。
今も、水道の蛇口をひねるたびに思い出す光景です。

◇ この計画は、前年の二月二日に穴守稲荷をスタート。一三回に分け、厳冬期などは避け、一年九か月を費やして多摩川を遊行したものです。一三八kmを完歩した会員は九名でした。

余談ですが、毎年五月の第三日曜日には笠取小屋で「水干祭り」が開催されているようです。多摩川源流笠取の会主催。参加者には飲み物・食事が提供されるそうです。

（取材 山口委員）

わがまちの顔

日体大荏原高校 柔道部

第38回 全国高等学校柔道選手権大会



平成28年3月19～20日 会場：幕張メッセ (写真提供 (株)P&P浜松)

本紙「かまにし17」第二十五号（平成十九年九月一日発行）で紹介した日体荏原高校柔道部が（今年度から日本体育大学荏原高校に校名変更）、三月二十日、日本武道館で開催された「春の全国高校選手権」大会で、悲願の初優勝を成し遂げましたので、改めてご紹介致します。
初優勝に伴い、五月一日には、矢口の渡商店街から矢口渡荏原高校通り商店街まで「優勝パレード」を行い、地元の皆様の温かい声援を受けました。また、区役所を表

敬訪問して、松原大田区長よりねぎらいの言葉もいただきました。

日体大荏原高校は、今年創立百一十一年。柔道部は、設立されて五十六年になります。現在、小久保先生の下、二十八名の部員が、日夜練習に励んでいます。
全国大会に出場するには、東京大会で上位二校の中に入ることが必須です。

東京都を四つのブロックに分け、一ブロック各十二校、シード校四校、計五十二校で熾烈な戦いが繰り広げられます。優勝候補の国士舘高校、修徳高校等、強豪校がひしめき合う中での出場権争いでした。東京、大阪、北海道は二校、それ以外は、各一校の出場で全国大会が行われ、今回初めて優勝を勝ち取りました。

キャプテンの三年生、藤原選手は、中学二年・三年の中学生大会で優勝、昨年度の世界ジュニア二位という成績の持ち主で、国際大会も経験しています。全日本強化選手・シニアのBランクのメンバーでもあり、東京オリンピック出場を目指しています。高校生で全日本強化選手・シニアのBランク

珍しいジャカラランダの花

中南米原産のこの花が、六月ごろ、環八（西蒲田八丁目一五番）街路樹の中に見られる。美しいブルーの花が房状に咲く。だれかが鉢から移植したものでしょうか。

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,122人
	女	29,620人
	計	61,742人
世帯	34,751世帯	

平成28年8月1日現在

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局 蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七二一七
電話 3732-4785



優勝パレードチラシ（抜粋）

に選ばれるのは、まれとの事で、今後の活躍が大いに期待されます。もう一人、モンゴルからの留学生で、三年生のハンガル選手も、今回の優勝に大きく貢献しました。モンゴルでは、ジュニアの強化選手に選ばれています。

二年生の塚本選手も、これからの柔道部を担う一人として、将来を有望視されています。今年度の団体戦の選手は、全員百キログラム以下の選手で、体格的に恵まれているわけではありませんが、大きい先輩たちに鍛えられたため、自分より体格の良い選手に対抗できるようなったとの事です。「組み手を制する者は、柔道を制す」の言葉があるように、組み手がうまくできる技術を身につけた事、そして何より、柔道に対する心の強い意識の高い選手が多いのが、優勝に結び付いたのだとの小久保先生のお話が、印象的でした。
全国大会連覇、東京オリンピックのメダルを目指して、これからも頑張ってください。
（取材 山崎・高橋・近藤委員）

近くの五つの公園で廃線跡の旅 矢口発電所専用線跡を歩いてみませんか

歴史

大正三年（一九一四）鉄道院は東京・横浜間の京浜線（現在の京浜東北線）の電車線開通に際して、その電力を補うため、荏原郡矢口村（現在の多摩川二丁目）に矢口発電所を建設しました。その発電に必要な石炭を運搬するため、蒲田駅から専用線が敷設されました。

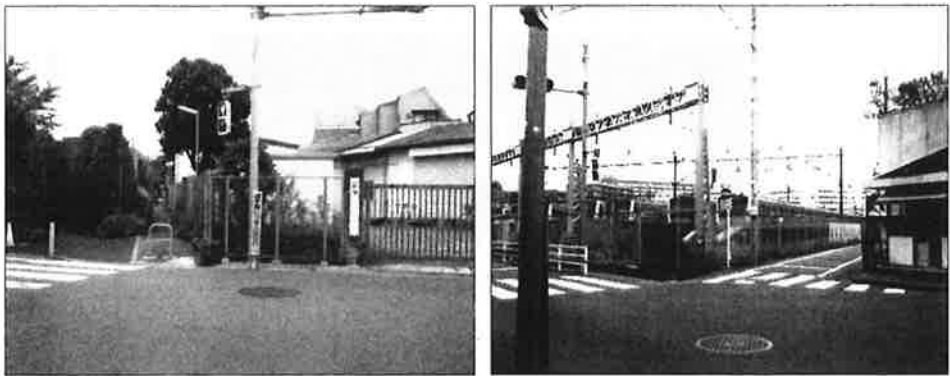
しかし、矢口発電所は大正十二年（一九二三）に発生した関東大震災により大破し、その後復旧過程が鉄道院における電化関連設備強化と重なったため大正十五年（一九二六）に廃止されました。

矢口発電所は約十年間でその歴史を終えましたが、専用線沿いは大正十二年から品川電車庫の分庫が設けられ、翌年から独立の蒲田電車庫となり、現在の蒲田電車区となりました。残された鉄道は、戦後取り外され、土建材料の置場などとして活用されました。

現在、その一部は、区立公園となっており、昔の専用線跡を辿ることができます。

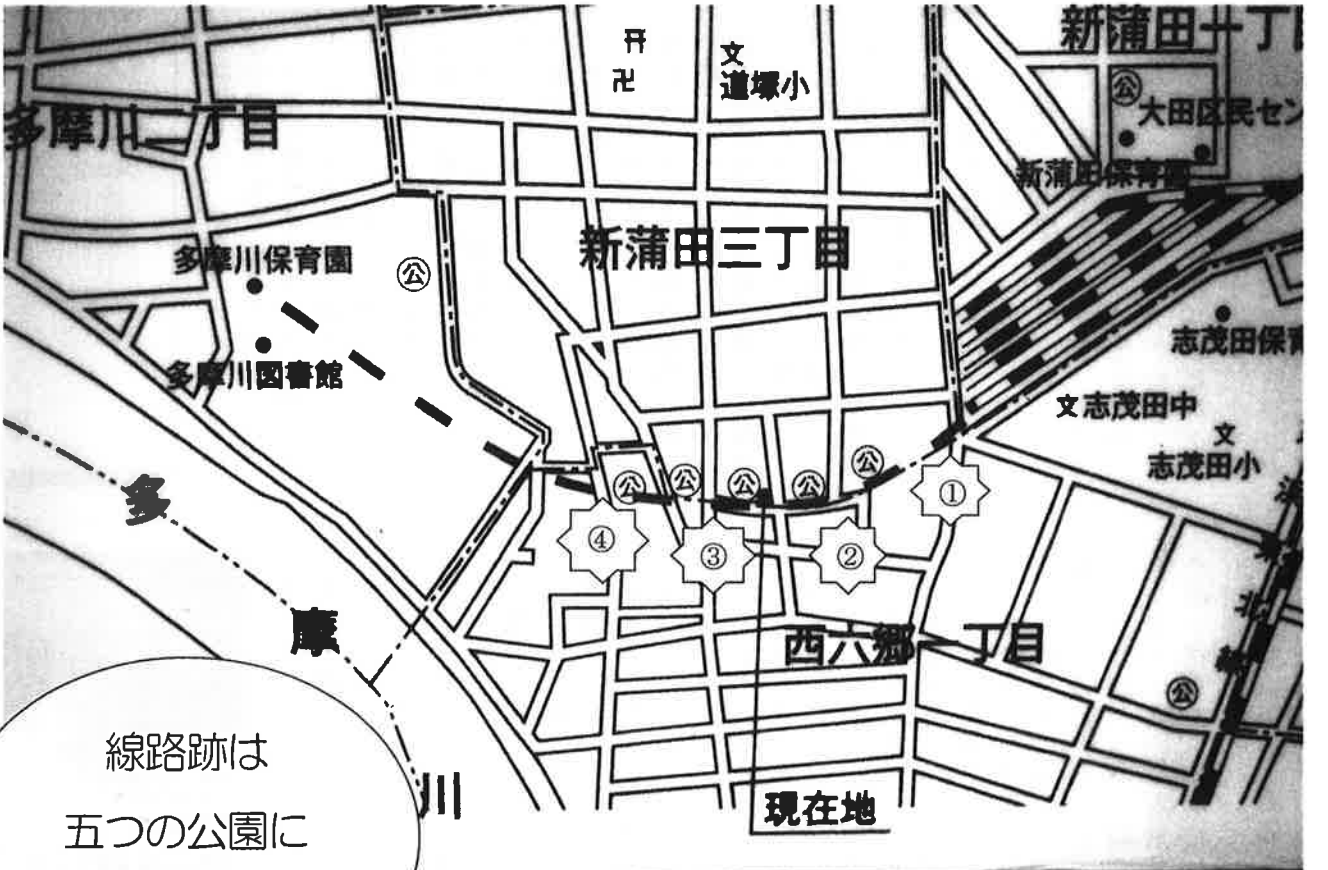
（道塚第三児童公園看板から引用）

① 蒲田駅西口から南に進み本線と分かれた蒲田電車区の南側の先がスタート地点です。



右写真反対側の細い道(1.5m 幅)を入ります。

下図の①から電車区を見たところです。



線路跡は
五つの公園に

蒲田電車区から多摩川保育園まで

この地図は道塚第三児童公園の看板の地図を撮影したものに、今回の記事の①～④のマークを挿入したものです。記事と対照してご覧ください。



写真奥の右側に公園名の表示がありました。

② 少し歩くと道幅が広がってきました。道塚南公園です。



歩道が線路の跡のようになっています。

道塚第三児童公園は最近きれいになりました。左は看板の写真です。右写真の正面（トミンタワー）の



駅のような看板もありました。

あたりに矢口発電所があって、燃料の石炭を運ぶ鉄道路線の跡が、今歩いている公園だったのです。歩道が線路のようになっていいるのも意味があつたんですね。



ちゃんと左右が逆になっているのがわかりますか？ なかなか手が込んでいますね！

上の写真は進行方向左側にあり、本道路を過ぎた先の公園の右側にはこんな看板が・・・

④ もう一回道路を渡ると、ここから古川児童公園です。



公園を通り抜け道路を渡った左側には「道塚南公園」の表示と・・・これは車輪ですか？ここを鉄道が走っていたの？

はい。正解です。

③ 道路を渡り道塚第三児童公園に入るとすぐ右側に看板があり、地図と写真と説明がありました。



矢口発電所全景



専用線写真



児童公園を出たら細い路地を通りトミンタワー前で今回の旅は終了です。



古川児童公園には鉄道の車輪のようなオブジェがたくさんありました。

（取材）大良・多田・塩澤・原委員